

第19回市民活動フェスティバル2020 開催!

「3分動画」&「Zoom de ワークショップ」で
「見て・知って・体験」をお家でも



▲会場からもZoom de ワークショップに参加



▲工夫を凝らした展示がずらりと並んだ会場

11月18日(水)~12月2日(水)の2週間、市庁舎1階の市民ホールで「市民活動フェスティバル2020」を展示に2つの新しいカタチ、「3分動画」と「Zoom de ワークショップ」を取り入れ開催しました。例年は来場者と団体が対面で話してもらえますが、今年はそれができません。そのため各団体が活動内容を紹介する3分動画を作成しました。ただ、動画作りに取り組むのは初めてという団体がほとんどだったので、最初は「動画作成なんてできるのだろうか?」「何から手をつければいいのか…」といった戸惑う声も聞かれました。しかし、そこは何事もチャレンジ精神で取り組む皆さんばかり、全展示30団体がそれぞれ個性あふれる素敵な動画を完成させました。この動画は特設サイトで視聴でき、フェスティバルの期間中は会場の市民ホールでも常時上映しました。展示にプラスして団体の想いや雰囲気を見る人に伝えるとともに、動画から流れる音楽は通りがかる人の足を止める効果もありました。例えばチーバくん体操の動画の時には、小さな子どもが「チーバくんだ!」と走ってきて、その動きに合わせて踊っているほほえましい姿も見られました。

そして、もう一つの新しいカタチがZoomを使ったワークショップ。自宅にしながら団体の活動を体験できることが魅力です。今回は9団体が10のワークショップを企画しました。少しアカデミックな内容から子どもたちも気軽に参加できる内容まで様々。興味に合わせて選択できます。このワークショップには展示会場からも参加でき、その様子はスクリーンにも映し出されました。

この企画に初めて挑戦した団体は通信環境や機材の準備、使い方の習得など色々苦労されたようですが、そこから活動の新しい可能性を見出されたようです。(ワークショップの様子は次ページで詳しくご紹介しています)



▲企画展：コロナ禍でも元気に活動中!

展示はいつもにも増して力の入った出来栄で、それぞれの団体の活動内容がわかりやすく色とりどりに作られており、ずらりと並ぶと圧巻でした。そのため一つ一つ熱心に見ていく人が何人もいました。

また、コロナ禍の中、工夫しながら続けている12団体の活動を紹介する企画展も併せて開催し、こちらも来場者に関心を持って見てもらえました。

新しい取り組みに多くの団体がチャレンジした今年のフェスティバル。参加した皆さんは「こんなこともできるんだ!」という自信を感じられたようです。そして、それはコロナ禍でも活動を続けていく力にもなるのではないのでしょうか。

※ 30団体の3分動画は市民活動センターホームページ動画コーナーからご覧いただけます。

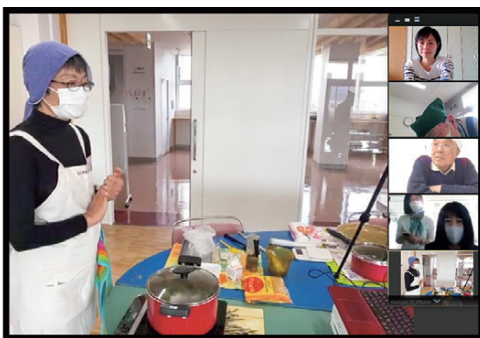


じいじい簡単クッキング ～おなべひとつで笑顔たくさん～

じいじいクッキング



▲ カメラの角度や段取りを最終チェック



▲ 画面越しに講師の説明を聞きませ



▲ 家にある食材で OK!

今回私はZoom deワークショップの初回、11月18日(水)に開催された「じいじい簡単クッキング」に参加しました。2010年11月に料理教室の卒業生17名が立ち上げた「じいじいクッキング」には、現在65歳以上の男性94名が在籍。調理実習を通じて参加者同士の交流を図ったり、ひとり暮らしの方が健康的な食生活が送れるようにサポートしています。今年の3月から調理活動が中止となつて以来、講師を招いてコロナウィルスや栄養に関する勉強会を行っていた皆さん。調理活動の再開のきっかけとして、このZoomに初挑戦することとなりました。

メンバーはもちろん、講師の正木さんもZoomで料理を教えるのは今回が初めてということで、11月9日(月)にはリハーサルが行われました。会場側と自宅参加者側のコンピューターやタブレットの接続確認、レシピの書かれたパネルや講師の手元がどのようにしたら分かりやすく映るかなどを試行錯誤しながらさぐっていきました。

リハーサルの甲斐あって、本番は定刻通りのスムーズなスタート。開始後も、参加者の様子を見て接続状況や疑問点がないかどうか、常に気を配ってくれるメンバーの温かさが伝わってきます。代表の脇野さんの挨拶後、講師の正木さんが料理のポイントや作り方の概要をパネルで説明し、調理を進めていきます。

今回のテーマは「おなべひとつで作るパスタ」。ポイントは冷蔵庫にある旬の食材を使って、お鍋ひとつで簡単に作ることです。参加予定者には事前に材料表を配信していますが、それはあくまで「一つの例」。それぞれの好みや体調に合わせて違う組み合わせにしたり、各自の舌を頼りに調味料の分量を調整したりすることを大切にしています。講師は旬の鮭に、甘味の出る玉ねぎと食感を楽しめるブロッコリーを使用。具材に火が通ったら生クリームや牛乳、レモンやバター、バルサミコ酢で好みの味付けを。美味しくするコツは、最後に具材を崩してペンネと絡めることだそうです。

参加者の一人は、水の量が少なくなり、ペンネが焦げかけて硬くなるというハプニングもありましたが、水の量を再調整して無事に成功。「奥さんにもおいしいと言ってもらえました！」と満面の笑みで、ベーコンやブロッコリーの彩り豊かなペンネを披露してくれました。

私は小松菜とシーフードで調理。普段はペンネを別茹でしていましたが、他の具材も全部一緒に一つのお鍋で茹でるのは、手間要らずで洗い物も減るという一石二鳥の調理法でした。誰かと一緒に作り、「簡単に美味しく」できたことは、子育て中の私にとってもありがたく素敵なひとときでした。

Zoomでの初クッキングについての感想を代表の脇野さんにたずねると、「調理は対面に越したことはない」としながらも、「Zoomだと難しい部分を人任せにすることなく、一人で全工程を作るので、自然に料理できるようになるでしょうね」とスキル面の向上に目を向けてお話してくださいました。



材料表の配布、説明パネルの用意、手元を映りやすく撮影して配信するリハーサルなど、見る人がわかりやすいように事前の工夫が凝らされた「じいじい簡単クッキング」。在宅で料理をいただく機会が増えている今、同じ空間ではなくても「同時に調理していただく」という時間が、じいじいクッキングの途切れない「交流」につながっていくのだろうと感じました。

(市民ライター 武田めぐ)

浦安版オンラインメイキットゲーム体験会

～地域の課題を解決するアイデアを出しながらコミュニケーションを楽しむ～

CivicTech団体URA-CIMA



▲ ユニークなアイデアに全員が拍手！

11月23日(月・祝)、CivicTech団体URA-CIMAにより開催された「浦安版オンラインメイキットゲーム体験会」に参加しました。URA-CIMAの前身は浦安市職員の有志メンバーによって業務改善をするために立ち上げられた団体です。現在では、様々な年代、職業の浦安が大好きなメンバーがそれぞれの強みを生かしながら、まち歩きやまちづくりゲームを通して浦安の地域課題やまちづくりについて考える活動を行っています。

今回のワークショップでは、URA-CIMAが開発した「まちなか発想ゲームメイキット」のアプリ版を用いて、ゲームを楽しみました。メイキットとは、「まちのしげん」と「まちのみりょく」(今回は浦安の名所・名物)が書かれたカードを使って、地域の課題である「まちのこえ」を解決するアイデアを出すゲームです。実現性にしばられず、頭を柔らかくして自由な発想をすることがポイントです。

ルール説明を聞いた後、2グループに分かれてさっそくゲーム開始。笑い拍手が沸き起こり続けるあっという間の2時間でした。例えば、「車に乗れず買い物に行けない高齢者の課題(まちのこえ)を解決するために、スポーツ施設(しげん)やうらっこ広場(みりょく)へ行く車に相乗りさせてもらえる仕組みをつくる。乗り場は空き家(しげん)の前にする事で、空き家を高齢者のための施設として活用する」というような斬新な解決策や、「テイクアウトは浦安三社祭り(みりょく)の神輿でデリバリー」というユニークなアイデアも生まれました。

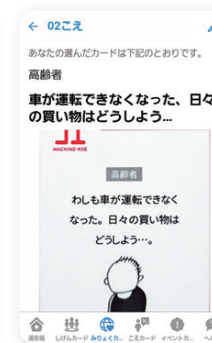
参加した人たちからは、「脳が活性化した」「浦安の魅力を改めて知ることができた」「仕事でも生かしたい」「オンラインならではの気軽さがよかった」という声があがりました。コロナ以前は公民館などに集まり、いろいろなまちづくりゲームを行なってきたのですが、カードゲームのひとつであるメイキットのアプリを開発し、デジタル化したことでオリジナルカード作りも手間がかからず簡単になり、リモート開催が可能になったので、遠方の人でも気軽にゲームに参加できるようになったとのことでした。

URA-CIMAの皆さんは、「市民活動を通して地域の方と直接触れ合うことで、住民のリアルな声を聞くことができ、それがまちづくりを考える時に役に立つ」とお話してくださいました。会話の後に続く「実は…」という本音を、まち歩きやゲームをするなかで聞くことができるそうです。今後は、まちづくりゲームを高校生、中学生、小学生と一緒に行うイベントや、コロナが落ち着いたら、まち歩きも開催したいそうです。

最後に浦安の魅力をお尋ねすると、「浦安には5つの地区があり、それぞれに特徴が違います。また、親の代以前から浦安に住んでいる方、最近転入してきた方、勤務地が浦安という方等、様々な人たちが生活しています。地域特性や住民の多様性を活かしつつ、これらの地域や人々をつなげる活動をしていきたい」と語ってくださいました。



▲ オンラインメイキットとは？



▲ スマホで「しげん」「みりょく」「こえ」の3種類のカードを見ることができる

浦安を想う熱い言葉を聞いて、なんだか感動しました！地域やそこに住む人々のことを想う人たちがつながることで、アイデアやアクションが生まれ、それが地域の未来につながっていくのだと思いました。ゲームの中で、浦安のご当地グルメのひとつであるたまごフライの話が出て、久しぶりに食べたくなりました。

(市民ライター 西橋 友理)

この団体に注目!

劇団マジカル・アチャラカ・シアター

文字通り、この団体はマジックショーと楽しい演劇を組み合わせ「エンターテインメント・ショー」を地域に提供しようと発足した団体。11月に立ち上げたばかりですが、「メンバーの顔ぶれは?」という「どこかで見かけたような…」、実は新浦安マジックサークルとルフランのそれぞれ代表を務める方が中心となって運営しており、市内のイベントではすっかりお馴染みの方々です。

団体立ち上げ前の9月には、2団体コラボ企画として、高齢者施設(デイサービスセンター)にて「感染防止対策」に配慮した上で2日連続の「演劇+マジックショー」を開催。この時は、演じる

人を少なくしてマスクに加えフェイスシールドも付け、その上、台詞を言うのは舞台袖の別の人がいった徹底ぶり、「アテレコ演劇ぶんぶくちゃがま」を演じたそうです。参加者からは、「また来てほしい」「私もいっしょにやってみたい」などの声があがり好評だったとか。

「コロナ禍でもエンターテインメントを!」とますます意気盛んで、その勢いにコロナの不安も吹き飛ばしてしまいそうです。



募集

備品ロッカー・メールボックスの利用団体を募集しています

市民活動センターでは、市民活動センター登録団体を支援するため、活動に必要な備品などを一時保管しておくための備品ロッカーと、郵便物などを一時保管するメールボックス(レターケース)を貸し出しています。

■ **申込期間** 12月1日(火) ~ 12月20日(日)

■ **申込方法** 直接、市民活動センターへ

※ 申込多数の場合は抽選となります。

● 備品ロッカー

サイズ:高さ56cm×幅29cm×奥行49cm(鍵付き)
貸出数:27個
期間:令和3年1月~6月(6ヶ月)

● メールボックス

サイズ:高さ7cm×幅23cm×奥行33cm(鍵なし)
貸出数:42個
期間:令和3年1月~12月(12ヶ月)

※ 定期的に郵便物を取りに来ることができる団体に限ります。
※ どちらも市民活動センター開館時間のみ利用可能。

団体応援ミニ講座のご案内

センターでは団体の活動に必要な、さまざまなミニ講座を開催しています。

- チラシ作成
- センターホームページの活用術(団体マイページ作成)
- 会報作成
- ホームページ作成
- 簡単な動画作成
- プレゼンテーション

■ **日時** 希望の日時をもとに調整の上、決定します。(市民活動センター開館時間内)

■ **場所** 市民活動センター・交流サロン

※ 少人数制の講座です。
※ 必ず、事前に申し込んでください。



お知らせ

市民活動センター年末年始の休館日 12月29日(火)~1月3日(日)

編集後記

- センターでは、団体の活動に役立つさまざまな備品を取り揃えています。
- イベントの相次ぐ中止ですっかり出番を失っていた大型プリンタ。ここ数日は、市民活動フェスティバルの展示用ポスターを印刷する団体が増え、久しぶりにフル稼働です。コロナ対策がますます声高に叫ばれる中、気持ちを緩めることなく、しばらくは静かに頑張っていきたいですね。



問い合わせ・申込みは
市民活動センターまで

発行: 浦安市市民活動センター
2020年12月10日

【感染拡大防止のためのお願い】

活動の際には、引き続き、『密集』『密接』『密閉』を避け、新しい生活様式を実践し、感染予防にご協力をお願いいたします。

〒279-8501 千葉県浦安市猫実1-1-1(市庁舎1階)
TEL: 047-305-1721 / FAX: 047-305-1722
E-mail: shimink@jcom.home.ne.jp
URL: http://u-shimin.genki365.net